

JCHO湯布院病院 地域協議会議事録

開催日時 令和元年9月18日（水） 18時30分より19時40分

開催会場 JCHO湯布院病院 2階 第1・2会議室

出席者 外部委員 5名

大分郡市医師会副会長 岩男裕二郎、大分県中部保健所長 前田泰久
由布市健康増進課長 馬見塚美由紀、由布市福祉事務所長 佐藤厚一
吉村歯科名誉院長 吉村幸治、自治会長 後藤久生、患者代表 佐藤晶

院内委員 5名

院長 根橋良雄、副院長 井上龍誠、事務長 木下真一
看護部長 永野美智代、地域連携室長 佐藤 史

配布資料 議事次第、概況書、令和元年度活動実績および計画

冒頭、(病院)より、地域協議会について委員名簿、議事録(匿名化)をホームページで掲載する旨の説明がなされ、了承を得た。

1. 院長挨拶

(病院)

平素より、当院の活動運営については、ご協力、ご理解いただきまして有難うございます。JCHOに移って、地震があり、スタッフが減ってさまざまなことがありました。地域の皆様にはご迷惑をおかけしながらも、なんとかやってこれたのは行政、医療、介護、住民の皆様のおかげです。厳しいのはまだまだですが、大分大学の医局人事で4月に神経内科医が1名、10月から内科医が1名加わります。地域を守るためますますやっていけるように頑張っています。

2. 委員紹介

(病院)より委員の紹介が行われた。

3. 湯布院病院の現況について

(病院)

資料に基づき説明があった。(主な説明事項)

① 4月からの採用医師の状況。

- ② 199 床になったため、事務局内の編成が変更になった。
- ③ 患者数等の状況。

・平成 30 年度の活動実績および計画
(病院)

資料に基づき説明があった。(主な説明事項)

- ① 5 月に湯布院病院連携のつどいを開催した。
- ② 患者・地域住民向けの公開講座を 5 月、7 月、9 月に実施。並びに出前講座を行った。
- ③ 地域への支援活動として、介護予防事業、地域ケア会議、ゆふいん温泉祭りに看護師 2 名を派遣した。
- ④ 由布市地域包括ケア推進協議会へ参加した。大分 JRAT として、9 月に災害リハビリテーション研修会実働訓練の予定。
- ⑤ 2 月に、再開した温泉プールの各月の 1 日平均利用者数の報告があった。

4. その他
(病院)

内科医師の杉谷先生が 10 月より診療活動します。総合診療科、消化器内科が担当です。また地域住民の方にはご利用の方、連携病院の方には患者のご紹介をお願いしたいと思います。

5. 委員からのご意見
(A 委員)

8 月に、黒字ということで、羨ましいですが、黒字転換した 1 番の要因はなんですか？

(病院)

地域包括の分を訪問指導、訪問診療の件数をクリアして 2 から 1 を取りに行きました。その分が点数に反映しました。患者数の確保と経費の削減で、職員数も落として、人件費や固定費用も落ちましたので、黒字に転換したと思います。減価償却費を減損処理したので来月から 60 万円くらい減ります。

(B 委員)

患者さんの地域別のデータは何かありますか？

(病院)

湯布院町や飯田地区の患者さんが多い状況になっております。

(B 委員)

非常勤医師の数はどうなっていますか？

(病院)

診療援助の形で JCHO の応援医師や、大分大学、紹介会社にお願いしています。昨年度とほぼ同じ状況だと思います。

(A 委員)

プールは、脳血管障害、整形外科等の入院患者さんの利用ということですか？

(病院)

主には入院患者さんですが、外来患者さんも、疾病の部分でのリハビリを伴う方であれば、プールの方も利用していただきます。

(A 委員)

それは、午前でも、午後でもですか？

(病院)

基本的には午後から行っています。疾患別のリハビリで入院・外来の患者さんを扱っています。

(A 委員)

以前頂いた、パンフレットを外來の受付に置いていたんですが、見た方が勘違いなさって、以前の健康増進的なところで利用できるのかと言う人もいて。僕の方で、いやちがいますよ、それは病院にかかって、入院や外來の指示が出た方だけなので、前みたいにお金持てるのは無理だから、そこを理解してねっと言うところがあります。もし余力がでたらある程度人員を配置してプールを利用できれば、プラス・アルファがありますので。それができれば市民の方も喜ばれますので、特徴としては、湯布院病院は温泉を利用した水中運動療法のノウハウがありますので健康増進の部分でも利用できるようにお願いできればということです。

(B 委員)

保養ホームの今後はあまり変わっていないのですか？

(病院)

何件か照会の問い合わせはありますが、本部としてはその後については検討されていない状況です。今までの状態で行くのではないかなと思います。建物自体は、地震の影響がでてるが躯体としてはしっかりしてるのではないかなと思います。

(B 委員)

メンテとかしてるのでしょうか。

(病院)

病院がメンテしている状況ではないが、もし、本部が売却する時は、また補修をするのか、現状のままか判断になりますが、病院側ではできない状況です。

(B 委員)

方向性が決まるといいがな。と思って。

(C 委員)

多くの理学療法士、作業療法士を派遣して頂き助かっています。温泉プールの利用者も増えて、訪問リハ、通所リハも増えたのに、でも人数が減っているので心苦しいです。

(病院)

正直言って厳しい状況ですが、地域に貢献するのが使命なので、内部で努力しながらやっている状況なので今後ともご理解をいただければ。

(C 委員)

市民公開講座は患者さん以外ではどの位参加されますか。

(病院)

市民の方に公開しているので、通院患者さんも勿論いらっしゃいますが、通院患者さんでない方も参加していただいて。テーマによっても違いますが、針先生の時とかは50人来ていただいています。でも、20人~30人は来られています。だいが市民公開講座が定着しているところは感じています。

(A 委員)

病院の職員の方が僕のところに来ましたが、出前講座をこういう形でするけどいいですか。と僕に聞かれたんですが、湯布院病院の出前講座は全然構わないと思います。と話させていただいたのと、9/12の防災のことも含めて、回覧があり、それに由布市が名義後援についてたんですが、そのことを確認させていただきたいのですが、市民公開講座なので、もし回覧をすることになると、JCHOさんは、独立行政法人という事になると、例えば僕が僕の病院としてやることになる時、由布市が、後援していただいて、回覧していただくということになるので、そのところは、よくお話をしてから。もう出来たパンフレットにはそういう風に入っていたので、それは許可を得られているのかとちょっと思ったんですが。連合医師

会とか大分市も含めて医師会で話す時に、一般病院の市民公開講座には、医師会は付くことはありますが、大分市とかは、だいたいついてくれないのですね。そのところは少し分けたほうがいいのかな。病院の職員の方にはそのことは話したんですが、行政の方が、災害ということで9月もいと由布市がOKしてるかどうか確認したほうがいいんじゃないの。と話もさせていただいた。

(病院)

その点は今後注意をしていきます。

(A 委員)

広く市民の方に来ていただいもらうことはいいことですが、僕よりも拘る先生方がいらして、由布市が主催するのは、県病の市民公開講座。県病がやるんだから由布市が後援したらいけないんじゃないのということがあり、その時は挟間であるからバスが送迎しますよということがあったものですから、由布市の先生から僕噛みつかれたんですね。この時にはバスを出しますよ、この時にはバスを出しませんよとなる可能性があるよと、どこの由布市内の病院がするにも全部行政がしてくれるよ、と確約してくれればいいんだけど。それも行政の方と話したことがあって。

(C 委員)

市役所の方も、市が主催する市民公開講座、で先生をお呼びする場合も医師会の方ご了解を頂く、県病の公開講座もうちが頼んだということもあって、そのまま載せてしまったというのはうちの手落ちだった。そういった中で医師会さんと連携取りながらやっていますので、今後ともよろしくお願いします。

(D 委員)

営利目的としなければ回覧はよい。市民が知る権利はあるので、いろいろな行事があつて。営利目的は一切受け付けない。非営利団体の場合は、回覧は、回そうと。自治会はそういう立場です。

(C 委員)

一般外来患者とか、救急で搬送される方で外国人は多いのでは。

(病院)

コンスタントに来られます。観光客が怪我、病気、日中、夜間来られます。症状については日本、外国関係なく当院で対応しきれないものもあります。オペが必要で用であれば、別府とか大分に転送します。言葉に関しては、大分県の無料の通訳や、スマホの翻訳機能である程度なんとかなってますけど、日本の言葉でしゃべるようにはなかなかいけないこともある

ので、時間が、かかったり、一定の労力が、かかっていることは事実です。言葉がうまく通じて文化の違いで、その後のフォローが大変。診断書を書くときにこういう風を書いてほしいとか、注文が色々あります。それも湯布院の観光地の使命だと思います。

(A 委員)

夜間は当直医がほとんど消化器外科医で、内科系や子供がみれない。英語が堪能な方で喋れる方は受け入れますが、看護師がためらう場合があります。ここで言ったら怒られるかも知れませんが、湯布院病院さんが救急告示をしてるので、いってもらように言っている。のが正直なところです。観光協会とかできちんと仕分けをしていただければと言うんですけど。外国人で通訳がいて、例えば消化管系の病気ですという事であれば、うちで診れるんですけど。フロントの人がお客様しかいわず、来たら誰も話せないような状況で、どうしようもなく、言語ツールみたいのはあるが、まったくコミュニケーションが最初から最後まで取れない。観光の業者も、私達もいい形で湯布院に受け入れるには行政も大きく入ってもらい、一緒になってやらんと難しいのかな。ただ、怪我をして、そこで血を流している人をほっておけない。診断書もややこしいんですよ、何枚もかけとか。後、前日の当直医が縫合して、預り金をもらって、明日来たらお釣りが来るかも知れないよ、と言ったが、夜間診療で10割にすると全然足りなし。足りない場合、医事課が請求すると、昨日の医者がいったので、絶対に払わない。もういいよいいよと帰ってもらう。そういうことが結構あり主張する文化の違い。確かに、1人みるのに何人も汗をかく。夜間は2人なので外来対応の場合は病棟ががらんとなる。大分市言語ツールの電話を通じてやっても結構大変です。夜間ほんとに受けられないんですよ。

(C 委員)

支払いの面で苦労しているのでは？

(病院)

未収金になっているのはあまりないような

(A 委員)

旅館の人に、こうこうこうでもらっていないんだけどというと、旅館の人もあまりわかっていないようで、カルテにも住所はかいてあるんだけど、そこに請求ができるか？外国ですから？

(病院)

保険に入っておられる場合はいいでしょうけど、保険に入っていない場合は全額自費ですから。

(A 委員)

旅行代理店で来られる場合は、かけてらっしゃるでしょうが、結構カップルの方はかけてないでしょうから。

なかなか、保険診療の 10 割というのが理解できないでしょう。

クレジットも手数料がその中に入っていない。一回の外来だと 10 割以上をとらないとクレジットの手数料とか考えるとやっていけない。

(病院)

外国の方はキャッシュレスが多いですから。

4. その他

(病院)

貴重なお時間、なおかつ貴重なご意見ありがとうございました。冒頭お話ししましたが、厚生年金病院から、JCHO になりまして、地域になかなか貢献できない部分もありまして、非常に恐縮している部分もありますが、皆様と協力してやっていきますし、明るい兆しも見えております。

私事ですが、9 月いっばいで湯布院病院の院長を終了させていただきまして、九州管外の JCHO の病院に移ることになりました。個人的なことですが東京におりまして、4 年半前にこちらに来まして、うちも頑張ってきましたが、地震があつたりしまして、ここまで来ることができたのも、行政の方、医療機関の方、皆様のご協力、ご理解のおかげと思っています。これから先、まだ、厳しいのが続くのは確かですが、明るい兆しは見えてきましたので、今後皆様と一緒に地域を守っていくために活躍できると信じています。明るい未来を見ていけないのは、若干残念ですが、明るい未来はかならず来ると確信していますので、安心して移って行くことができます。ありがとうございました。

(病院)

それでは、これを持ちまして第 8 回地域協議会を終了します。どうもありがとうございました。

〈 了 〉